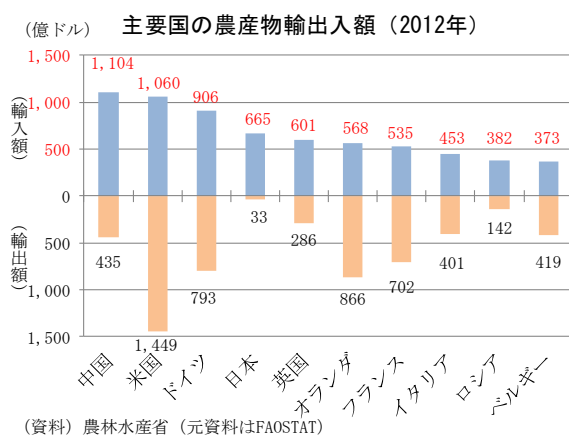


## 農産物・食品輸出の拡大ペースは続くか

### ◆リンゴや水産物の輸出が伸び、目標を1年前倒しで達成

2015年の農林水産物・食品の輸出額が7,452億円となり、3年連続で過去最高を更新したと、農林水産省が16年2月に発表した。13年にアベノミクス成長戦略で、農林水産物・食品の輸出額は20年に1兆円が目標に掲げられた。中間目標は16年7,000億円だったが、1年前倒しで達成された。和食が13年のユネスコ世界無形文化遺産登録で人気が高まり、円安で輸出価格が下がったおかげもある。

日本は農産物の輸入大国だが、他の輸入大国と比べると輸出が極端に少ない。輸出拡大に向けた国別・品目別輸出戦略は13年に策定されている。1兆円目標の半分は加工食品、3割強は水産物で、コメ・コメ加工品や青果物、緑茶、牛肉など農畜産物の輸出目標は1,400億円となっている。今のところ、青果物や水産物などは想定以上に伸びているが、コメ・コメ加工品や花きは苦戦している。



日本の農林水産物・食品の輸出戦略

	2012	2015	中間目標 (2016年)	目標 (2020年)
コメ・コメ加工品	126	201	280	600
青果物	79	235	170	250
花き	83	82	135	150
緑茶	51	101	100	150
牛肉	51	110	113	250
加工食品	1,299	2,258	2,300	5,000
林産物	123	270	190	250
水産物	1,698	2,757	2,600	3,500
計	4,497	7,453	7,000	1兆円

(資料) 農林水産省「農林水産物・食品の輸出促進について」

### ◆香港や台湾だけでなく、米国や中国、ASEANで市場拡大を図れるか

輸出先シェアでは香港が24%で、台湾、韓国、シンガポールと合わせたNIEsで5割弱を占める。NIEsはアジアの高所得地域だが、市場規模は限られ、伸びシロは期待できない。現在はシェア1割強の米国や中国、ASEANで和食市場を拡大できるかが今後のカギを握る。TPP協定が発効すれば関税撤廃が進むが、米国向けのコメや味噌、醤油などは5年目での撤廃なので、20年には間に合わない。16年から施行される米国食品安全強化法への対応も求められる。輸出手続きの迅速化や輸送コストの削減など、20年の目標達成に向けた課題は多い。 【長谷川雅史】